

# 大島復興交流プログラム 概要報告

平成 27 年 12 月  
大島復興支援東京ボランティアセンター

2013 年の台風 26 号の被害は、伊豆大島で死者・行方不明者が 39 名にもおよぶ多大な被害を及ぼしました。台風災害から 2 年が過ぎましたが、未だ仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方もいらっしゃいます。

東京都災害ボランティアセンターは発災直後からさまざまな団体とともに連携し、伊豆大島の支援活動に取り組んで参りましたが、2014 年 2 月より、大島復興支援東京ボランティアセンターとして新たに復興支援に向けた取組みを行ってきました。災害をきっかけに島民との交流を継続すべく、昨年度初めて大島復興交流プログラムを実施しました。

日 時 2015 年 10 月 30 日（金）～11 月 1 日（日）

1 泊は船中泊、1 泊は旅館での宿泊

場 所 大島社協福祉まつりの会場（役場周辺）、被災地域（元町 2 丁目～3 丁目、神達）など

内 容 （1 日目）

出発日 10 月 30 日（金） 22 時 00 分 東京竹芝港発（大型客船）

（2 日目）

活動日 10 月 31 日（土） 6 時 00 分 大島着（岡田港）

10 時 00 分 大島社協「福祉まつり」のお手伝い

（会場設営や模擬店、パネル展示など）

17 時 00 分 終了・各自宿泊場所へ（大島館、三浜館）

（3 日目）

帰京日 11 月 1 日（日） 8 時 40 分 町役場職員から被災状況および復興に向けた取組みの説明

9 時 20 分 被災地域の散策（元町 2 丁目～3 丁目）

10 時 30 分 島民の語り部

11 時 00 分 島内視察（波浮港、ネイチャーガイド）

14 時 30 分 大島発（大型客船）

19 時 45 分 竹芝港着・解散

○大島復興支援東京ボランティアセンターとして、大島社協「福祉まつり」にブース出展し、浪江焼きそばの提供を行った。また、センター構成団体のパネル展示を実施しました。

参加者 20 名 ○参加者は広く公募するのではなく、大島復興支援東京ボランティアセンター関係者の中から、当時、大島土砂災害のボランティア活動に参加した人に声かけをして募集を行いました。

○参加費 A コース 1 万 5 千円（竹芝港集合・解散）

B コース 1 万円（大島元町集合・解散）

主 催 大島復興支援東京ボランティアセンター

（構成団体）大島社会福祉協議会、国際協力 NGO センター（JANIC）、シャンティ国際ボランティア会（SVA）、東京災害ボランティアネットワーク、東京ボランティア・市民活動センター、東京 YMCA、日本青年会議所関東地区東京ブロック協議会、ピースボート災害ボランティアセンター

協 力 ジャパン・プラットフォーム、東海汽船、グローバル・ネイチャー・クラブ、大島町復興推進室、愛らんどセンター御神火温泉

## 参加者からの声（アンケート結果から主なものを抜粋）

### ◆ 1日目の福祉まつりのお手伝いについて

- ・大島復興が着実に進んでいる事を確認できた。
- ・みなさんと、一緒に焼きそばを焼くことで、ちょっぴり仲間に入れて頂いた感じがしました。
- ・福祉まつりでは、社協ボランティアや協力会員・地元高校生の協力のもと開催されているのが感じられ、地域住民一体となり地域を支えているのを一緒に体験できとても勉強になりました。
- ・福祉まつりでは、お店にはりつけになると、全体を見るのは難しかった。島の人と話すチャンスが中々とりにくかった。

### ◆ 2日目のスタディツアー

- ・語り部のお話は、今回はじめて大島を訪れた参加者でも当時や現状のこと、住民の感情などが伝わるいい企画だと思うので、つづけてもらいたい。
- ・被災現場をあるいたり、被災者の方たちのお話などから、ニュースなどで感じていたものより、とても重く自然災害に対して受け止めることができました。減災・防災にむけた対応・対策の重要性も感じました。
- ・椿園でのお話。ご自身の体験、そして気づかれたことだけでなく、ボランティアとの関わり・ボランティアに求める事なども聞くことができよかったです。
- ・コースを選べたのが良かった。
- ・火山島としての伊豆大島に触れられた。ガイドの方の知識も豊富だった。

### ◆ プログラム全体について

- ・御神火 焼酎の見学や、大島牛乳の見学もしてみたいです。
- ・交流と学びとこれからと、うまく絡まっていたと思います。参加対象がやや内輪な感がありましたが、結束して動けたのではと思います。
- ・参加者を増やすのであれば、参加費は少し高いのかなと。新規で参加を考える人にとっては、ハードルが高いと思います。プログラムはとても良いと思います。
- ・今年は福祉まつりに高校生の姿も多く見られた。翌日が駅伝大会のため、難しいかもしれないが、地元高校生から当時の状況や現状について、調べた研究発表のような企画を実施してもらえるととても興味深い。また、アルコールが苦手な方も参加できる振り返り会を正式なプログラムとして1日目の夜にやるとよい。
- ・交流プログラムと言いつつ、実際島民と交流することが難しかった。
- ・災害発生からその後の地域住民の暮らし・生活・状況などを感じることができました。参加してよかったです。



大島に着いた初日、大島社協の鈴木さんから土砂災害の概要と災害ボランティアセンターの取組みの説明を受けました。



今年の大島福祉まつりは第37回目。役場前の都道が歩行者天国に。島内の福祉団体がブース出展、島民およそ1,600人が参加しました。



参加者は島民の方々が出展するブースにお邪魔させて頂き、簡単な調理や売り子などのお手伝いをさせて頂きました。



大島復興支援東京ボランティアセンターは、焼きそばの販売と物販、土砂災害時のボランティア活動の様子などを写真展示しました。



福祉まつり終了後の記念撮影。片付けもスムーズに終わることができました。お疲れ様でした。



2日目は被災地スタディツアー。被災地域を歩き、住民の方からお話を伺いました（写真は、あいべえを実施していた「くぼいち」さん）



スタディツアーは2グループに分かれ、それぞれ土砂が流れ下った大金沢沿いを旧ホテルつばき園まで上っていきます。



災害当時から今の心境までをつばき園の元女将さんが話して下さいました。新町亭という歴史的な建物を使わせて頂きました。



また、建物の屋上から被災当時の様子を説明して下さいました。



午後からは希望制で島内の魅力を知るプログラムに参加しました（ネイチャーガイドの写真）。



こちらは、波浮港散策チームの写真。



参加者が島を離れる際に、島民の方々がたくさん見送りに来ていただきました。